

令和6年度第1回 日本脊椎脊髄病学会ヒストリアン委員会

日時：2024年2月16日（金） 19:00～20:00

場所：Zoom オンライン

出席：永島 英樹、谷島 伸二、加藤 壯、寒竹 司、須藤 英毅、橋本 功、土屋 邦喜、根尾 昌志

欠席：明田 浩司、國府田 正雄、橋爪 洋、千葉 一裕、名越 慈人（敬称略）

議 事：

1. 記念誌進捗状況の共有と今後の編集の方針

現在の記念誌の進捗状況について委員会で共有した。

概ね順調に原稿が集まっている。

未収原稿があるため締め切りは3月31日として各著者に執筆を再依頼する。

5月31日が最終締め切りとしている。

今回はアーカイブに残すため多くの写真を提供いただいているが、

今井印刷より各学会報告の写真は全体のバランスを見ると1記事に対して4枚前後が望ましいと報告あり。掲載する写真の調整については、委員会全員で集合しての校正作業は日程調整が困難であり東京近郊で集合できる委員数名で調整作業を行うことを考えている。

2. 「日本脊椎脊髄病学会 50周年記念誌：日本のオリジナリティのある脊椎・脊髄外科の歴史」 委員会での検討事項について

下記の項目を委員会で調整することとしていたが、本年度具体的に詳細を決定していなかったため今回方針を決めることにした。

①再生医療：椎間板再生・脊髄再生について今後の展望を含めて原稿依頼を行う方向であったが、本記念誌は50周年の歴史を振り返るものであり、今後の展望を記載することは本来の目的に合わないのではないかと意見があり、検討の結果50周年記念誌では再生医療の項目は設けないことになった。

②椎弓形成術：山口大式椎弓形成術（服部法・Z-Plasty）、片開式頸部脊柱管拡大術（平林法）、棘突起縦割法頸椎脊柱管拡大術（黒川法）、桐田一宮崎法の4つの術式について掲載することにした。4つの術式は各術式についてそれぞれの著者に寄稿いただき、委員会で1原稿としてまとめることにした。また、前回の委員会ではC5麻痺についても盛り込むことが検討されたが、今回は合併症は除外し、術式のみに限局した内容で原稿をまとめることにした。

③頸髄症の評価法：評価法は多岐にわたるため委員会で検討した結果「10秒テスト」に集約し原稿依頼を行うことになった。

3. 委員会活動

指導医制度委員会・専門医制度委員会についても掲載することにして各委員会に依頼を行うことにした。

4. その他

酒匂崇先生よりいただいたレーガン元大統領のポートレートについて記事を組んだ方が良いのではないかと意見があり今後検討することにした。